

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

| 事業名 | 地すべり対策事業 | | 路河川名等 | 越道区域 | | | | | | | | |
|--------|---------------------|---|--|---|---------|----------|------|---------|--------|-------|------|-----|
| 事業毎の通番 | 1 | 市町村名 | 長野市 | 越道(こえどう) | | | | | | | | |
| 事業概要 | 事業目的 | 平成16年10月の台風22号により同地区内で地すべり災害を引き起こし、3世帯6人が自主避難している。また平成26年11月の神城断層地震による影響で変状が拡大しており、今後降雨等による地すべりの活発化が懸念される。ブロックの頭部及び末端に県道、市道があり、地下水位が上昇すると継続的に滑動すると見られ、今後の降雨において滑動が活発化する恐れがあることから、早急に対策工を実施し地すべりを安定させる必要がある。 | | | | | | | | | | |
| | しあわせ信州創造プランにおける位置付け | 5-2 快適で暮らしやすいまちづくり(地すべり災害を防ぐ施設の整備) | 事業実施の根拠法令等 | 地すべり等防止法 | | | | | | | | |
| | 関連する事業、計画等 | なし | | | | | | | | | | |
| | 保全対象・範囲 受益対象・範囲 | 人家85戸、主要地方道信濃信州新線、長野市道220号線 | | | | | | | | | | |
| | 着手年度 | 平成28年度 | 事業期間 | 8年間 | 事業費(千円) | 財源内訳(千円) | | | | | | |
| | 完成年度(見込み) | 平成35年度 | 費用対効果 | 10.83 | 国庫 | 150,000 | その他 | 135,000 | 県債 | 4,500 | 一般財源 | 500 |
| | 全体事業内容(主な工種) | 横ボーリング工 L=6,800m 水路工 L=500m アンカー工 N=60本 | | | 300,000 | 150,000 | | 135,000 | 15,000 | | | |
| | 年度事業内容(主な工種) | 地質調査 1式 地すべり観測・解析 1式 | | | 10,000 | 5,000 | | 4,500 | 500 | | | |
| | 事業効果 | 直接的効果(定量的・定性的) | 人家、道路等の保全 | | | | | | | | | |
| | | 間接的効果(定量的・定性的) | 災害に強い地域づくり | | | | | | | | | |
| 評価の視点 | 必要性 | 人家戸数: 公共施設数: 要配慮者利用施設の有無: 河川への土砂流量: | 保全対象人家85戸 主要地方道信濃信州新線、長野市道220号線、木村公民館 無し 20,000m3 | | 評価 | B | | | | | | |
| | 重要性 | 過去の災害履歴: 交通遮断による地域経済への影響: 地域防災計画上の位置づけ: | H21年8月6~8日の豪雨により人家裏で崩落があった 主要地方道信濃信州新線 長野市道220号線 既指定の地すべり防止区であり、地域防災計画に記載されている | | 評価 | A | | | | | | |
| | 効率性 | 費用便益比(B/C): 事業期間: 工法等の比較検討: | B/C=10.83 8年間 現在のところ比較検討は行っていない | | 評価 | B | | | | | | |
| | 緊急性 | 地すべり滑動度: 地すべり変状: 下流の堰堤等の整備状況: | 2~3mm/月 程度の動きがある 過去1年以内に新たな滑落崖が形成され人家に影響が出ている 堰堤はない | | 評価 | A | | | | | | |
| | 計画熟度 | 事業情報の共有: 地域の取り組み: 地域の合意形成: 住民との協働: | 関係者に対し事業説明会を実施し周知している 地元要望があり、合同で現地調査を実施している 整備手法に対し地域の合意形成が図られている 住民主導型避難体制づくりに取り組んでいる | | 評価 | A | | | | | | |
| | 部意見 | 地震により発生した地すべりが、今後の降雨や融雪等により拡大する恐れがあり、緊急に整備する必要がある。 | 行政改革課意見 | 今後の降雨等により活動が活発化する恐れがあり、保全対象に人家、県道、市道があることから、重要性が高く、緊急性も認められる。 | 評価結果 | ○ | 総合評価 | A | | | | |

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

位置図

長野市 越道

①B1ブロック全景

②頭部滑落崖の亀裂沈下状況

【整備の必要性がわかる状況写真等】

③擁壁の亀裂変状

④融雪に伴う滑動

⑤電柱の傾倒

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景

越道地区は犀川支流の越道沢上流左岸側(位置図参照)に西側に向かい緩く傾斜する斜面が山腹から河床まで続く。古い街道筋で、比較的大きな集落が存在する。平成16年10月の台風22号により同地区内で地すべり災害を引き起こし、3世帯6人が避難した。平成26年11月の神城断層地震による影響で変状が拡大しており、今後降雨等による地すべりの活発化が懸念されるため、早急に対策工を実施する必要がある。

②地域からの要望経緯及び地域の関わり

地震災害発生直後から地域より要望がある。

③事業説明等の経緯

事業について関係者へ説明済み地元からの要望が強い。

④他事業・プロジェクトとの整合、関連

無し

⑤自然環境・生活環境への影響と配慮

横ボーリング孔口等、地表に露出するものは、ふとんかごなど自然の資材を用いた施工とし、環境や景観に馴染むよう配慮する。

⑥地域活性化への影響と配慮

本事業により地すべり災害の防止が図られ、災害に強い地域づくりが推進される。

⑦その他

| | | |
|-------------|------|------------|
| 事業代表地点の緯度経度 | 北緯:N | 36.596988 |
| | 東経:E | 137.996197 |